

# RadioDays



## ラジオデイズ

声には、  
人の体温があり物語がある

# 12

November Edition  
2009, vol.31  
Free of charge

月刊「ラジオデイズ」12月号（通巻第31号）

2009年11月28日発行

【発行人】赤塚祐一郎

【編集人】大森美知子

【発行所】株式会社ラジオカフェ

東京都新宿区新宿1-6-5 シガラキビル 6F

Email: info@radiodays.jp FAX: 03-5356-8281

http://www.radiodays.jp

この人の声が聴きたい◎12月

山上路夫さん（作詞家）

## その唄を口ずさめば、いつも あの時代がよみがえってくる



私の育った昭和三十年代から今に至るまでの折々の風景（それは個人的な出来事だったり、社会的な事件だったりするのだが）の背景にはいつも山上路夫の作詞した唄が流れていた。

調べてみて、あらためてその作品リストの充実ぶりに驚いてしまった。それはほとんど、昭和歌謡史そのものといってもよいほどの量であり、その多くの印象的なフレーズを団塊世代以降の人々は、生活のふしで口ずさんできたはずである。

並べて見よう。「翼をください」「ひなげしの花」「二人でお酒を」「学生街の喫茶店」「瀬戸の花嫁」「世界は二人のために」「甘い生活」「私鉄沿線」「禁じられた恋」「岬めぐり」「夜明けのスクヤット」「生きがい」。挙げていけばきりがない。

驚くのは唄の数の豊穡さだけではない。唄がカバーしている「世界」の多種多様、そのバラエティーに舌を巻く。

いったい、一人の人間にこれほどの多様な世界を描き出すなんてことが可能なのか。山上路夫には、マンネリズムとか惰性といったものは無縁なのか。ひとつひとつの唄のなかに、どんな体験が潜んでいるのか……。

友人の紹介もあって、この山上さんと実際にラジオでお会いすることになった。あれだけのヒット曲を手がけてきた、日本歌謡界の大御所がいっしょやるというので、スタッフは少し緊張気味であった。実は、この日の収

録はもつと前に行うはずであったが、体調をくずされており延び延びになっていたのである。わたしの中にはなんとなく、森進一を叱りつけた、頑固一徹、いっごく親爺の川内康範さんの面影があったのかもしれない。

「いったい、どんな人なんだろうね」

「怖そうですね」

そんな会話をしているところに、電話が鳴った。スタジオの場所が判らないので迎えに来てほしいとのこと。私は椅子を蹴ってスタジオを出たが、「しまった、俺は顔を知らないんだ」と気がついたときには、待ち合わせのホテルのロビーに駆けつけた後であった。ロビーにはそれらしい怖い顔の初老の紳士が何人か人待ちをしており、片っ端から声をかけたのだがすべて空振り。あたふたしてスタジオに戻ると、そこにはすでに山上さんが到着していた。

実際にお会いした山上さんは、温和なやさしい方で、スタッフとほっこりとした雰囲気でお話していた。収録は実に楽しいものになった。その柔らかい声からは、驕りも高飛車なところも聞かれることはなかった。どこにでもいる、しかし何事かを成し遂げた人ではない、発することできない、普通でいることの奥深さ、凄みを感じさせる。収録後、「ずっとお話を聞きたいですね」とスタッフの一人が呟いた。私は同意し、唄作りの職人の、風貌リストの最上位に山上さんを登録した。

（ラジオデイズ・プロデューサー 平川克美）

ラジオデイズは、文芸・対話・話芸を三本の柱に、声のもつ魅力に特化した音声コンテンツを制作し、ダウンロード販売するWebサイトです。  
飄逸で含蓄のある随筆、瑞々しい感性の横溢する詩歌や小説の朗読、個性的な対話者たちの真摯な言葉の応酬から生まれる知的交歓、粋と人情の落語や講談などなど、大人のお楽しみにたえる魅力的なコンテンツが満載です。

ただいま入会随時受付中！

会員（登録無料）にならると、期間限定の無料コンテンツがお楽しみいただけます。サイトでは、声の魅力を凝縮したコンテンツのすべてが試聴できるほか、演者のプロフィールやコラムなど読み応えも十分です。どうぞお立ち寄りを！

<http://www.radiodays.jp>

### ＜対話・放談＞

人気メルマガでおなじみ、田中宇氏の国際ニュース解説『世界はこう読め！Ⅰ・Ⅱ』、作家・瀬川鯉昇師匠の癒し系連続トーク『鯉昇の昼寝まぐら』、ムッシュかまやつさんや、最後のインタビューになった故加藤和彦さんなど、ミュージシャンにお話を伺う『Musical Talk』、善尚中さん、福岡伸一さん、町山智浩さんなど知的なゲスト満載のラジオ番組の番外編『ラジ街プラス1』が好評。さらに、慶應MCC開催の『タ学』のなかから、各界の第一線で活躍する文化人による講演を厳選してお届けしています。インド哲学の碩学・中村元先生の名講演も配信開始しました。

### ＜文芸＞

作家の関川夏央さん、小沢昭一さん、詩人の清水哲男さんなど多彩な解説者を迎えた『声のエッセイ』コレクションが評判。また、『声の詩集』シリーズでは、女優鳥丸せつこさん朗読、詩人正津勉さんナビゲートの『詩人の愛』Ⅰ・Ⅱをお届け中。女優有馬稲子さん朗読の『水仙』や、さらに本邦初となる落語家・入船亭扇辰師、柳家三三郎朗読による江戸弁で聴く『ゴゴリ』『外套』『鼻』も発売中。そして、太宰治生誕百年のいま、松平定知さん、山根基世さんなど熟練アナウンサー朗読の『人間失格』『斜陽』他も聴きこえた十分です。

### ＜話芸＞

ラジオデイズ収録の新鮮なオリジナル音源約三百本をお届け中。時代に磨かれた古典を自家業籠中に現代に演じた作家たち。そして、時代の流れから湧き出た、かつて語られたことのない新作に満ちる作家たち。ライブ音源だけに一期一会の嘶に出会えます。不定期ですがラジオデイズイチオシの作家さんの演目を無料ダウンロードにて提供していきますので、毎日覗きにきてみてください。まずは、試聴ボタンを。

●第31回 オリンパスモビー寄席

## 三遊亭白鳥独演会

【日時】12月15日(金)午後6時45分開演(午後6時15分開場)  
【場所】お江戸日本橋亭(三越前)

すべての落語は新作として生まれ、生き残ったものが古典になる……。時代の流れから生み出された一席の噺を、口演を重ねながら書き換えていき、自家業籠中に演じざる現代の噺家たち！古典を腹に飲み込んだうえに、現代人をうならす工夫を凝らした三遊亭白鳥の高座はいまもつとも注目されている。次々と繰り出される創作落語は、たしかな構成力に裏打ちされている。漸進的に横滑りしていく展開に翻弄されつつストンと腑に落ちるのが白鳥流である。いざ白鳥ワールドへ……。

## 三遊亭白鳥

(さんゆうてい・はくちょう)

三遊亭白鳥。平成十三年、真打昇進。創作した落語は百本を超え、その類稀な創作力と表現力で、一躍新作落語の旗手となった革命児。作り手ならではの観点から換骨奪胎した古典にも定評がある。創作話芸協会「SWA」の一員。昨年は、創作落語集「砂漠のバーの止まり木」を刊行。稀代のストーリーテラーとして、いまのりに乗っている。



## 三遊亭ぬう生

(さんゆうてい・ぬうせい)

三遊亭白鳥。平成十六年、二つ目昇進。プログラマーから落語家に転身。新作には一連の「ホストクラブ物語」があり、現代に生きる人間の濃やかな心理が緻密に構成されている。一方で古典にも精力的に取り組み、師匠譲りの巧みなアレンジメントを發揮している。「SWA」世代の下で頭角をあらわしつつある、今後注目の若手。



# 明烏い話

連載第33回

本田久作

先代の柳朝が『たらちめ』の翌朝の場面に  
ついて、前の晩が初夜だったのだから女将さん  
の方にそれらしい恥じらいを出さなければなら  
ない、というようなことを言っている。この逸  
話が落語ファンによく知られているのは、噺家  
はそこまで考えて落語を演じているのかという  
驚きと、これを言ったのがどちらかというと荒  
っぽい印象の柳朝であったということが大きい。  
あの柳朝ですらそこまで繊細なことを考えてい  
たのか、と落語ファンはたまげたのだ。だが実  
際に柳朝にその演出ができていたかといえば、  
おそらく出来なかっただろうという気がする。  
柳朝にそう演じるだけの腕がなかったと見くび  
っているわけではない。わずかな細部ですら変  
更できないほど『たらちめ』という噺が完成さ  
れていることを言いたいのだ。

これは何も『たらちめ』に限ったことではな  
い。大概の前座噺は作品としてほとんど完成  
の極に達している。そして、完成している噺に  
は手のつけようがない。わかりやすく言えば、  
『らくだ』を十八番にしている噺家はいるが、『子  
ほめ』を十八番にしている噺家はいない、とい  
うことだ。一つの噺を自分の十八番にするため  
にはその噺に他の噺家には真似の出来ない何か  
を注ぎ込まなければならぬ。ところが、『子  
ほめ』は噺自体の完成度があまりにも高いの  
で、演者が少々の工夫を凝らしたところで、そ  
の人ならではの『子ほめ』にまでは至らないの

である。

噺家が努力を怠っているわけではない。『子  
ほめ』に対する新工夫は今なお途切れることな  
く続けられている。くすぐりだけ取り上げて  
も、あの有名な「ジャワスマトラは南方だ」と  
いうくすぐりも戦後になってからつけ加えられ  
たものだというし(まあ、そりやそうだ)、先  
日は赤ん坊とお爺さんを間違えるくだりで「肩  
に彫り物がしてあるからおかしいと思ったんだ  
よ」というこれまで(少なくとも私は)聞いた  
ことのなくくすぐりを聞いて大笑いした。「久  
しぶりじゃないよ、昨日湯屋で会ったじゃない  
か」の場面で「お前だろ、私のパンツを穿いて  
行ったのは」という新しいくすぐりを入れる噺  
家もいる。このようにそれぞれの演者がさまざ  
まな工夫を凝らしているにも関わらず、それで  
もなお『子ほめ』は「前座から真打まで誰も  
が演る『子ほめ』であって、「誰それの『子ほ  
め』もしくは『子ほめ』なら誰それ」という  
言い方をされたことは一度もない。

『子ほめ』のような誰もが演る噺を十八番に  
するほど入れ込むのは無駄だ、と考えるのは間  
違ひである。同じように誰もが演る前座噺の『道  
灌』を小三治は得意にしているし、さらに驚く  
べきことにこの噺をトリでかけたりもしている。  
おまけにオチまでやらずに途中で切って冗談オ  
チで下りたりもする。トリで『道灌』を演る  
のは気障と言えは気障だが、ならば同じこと  
を小三治以外の誰が出来るのかと考えると、こ  
れはやはり小三治の芸に脱帽するより他ない。  
私は小三治が『道灌』でやっているのと同じこ  
とを他の誰かが『子ほめ』や『たらちめ』でや  
らないかと期待している。そしてそれは『らく  
だ』や『芝浜』でトリをとるよりもはるかに難  
しいということも承知している。それでも私は  
そういうネタをトリで聞いてみたい。トリなら

ばいつでもどこでも大作をかけるのが当たり前  
になっている最近の風潮が私にはいささかしん  
どいのだ。最後に客を感動させて帰らそうとも  
くろむ噺家も野暮だが、最後は感動してから  
寄席を出たいと思っている客も馬鹿である。途  
中で重く、最後は軽く終わる方がいっそ粋では  
ないか。

●ほんた・きょうさく

一九六〇年大阪府生、落語作家。「二〇一年の「仏の遊亭」が国立演芸場  
台本募集佳作受賞以来、落語、漫才など新作台本関係の賞を毎年総ナメ  
の業界注目の新進作家。主な受賞作「玉手箱」(国立演芸場台本募集優秀  
作)、「儼の葬式」(按摩の夢「幽霊妻」(いずれも落語協会優秀賞)など

## 私の讃太ばなし 参拾壱

三遊亭萬窓

## 『たらちめ』

寺  
師匠円窓から前座の頃教わりました。登場人物が多く難し  
い噺で、真打になってどうにか演じ分けられるようになり  
ました。以前、新妻の言葉遣いが丁寧過ぎることを言い忘れ  
気づいて慌てて辻褄を合わせましたもの、しどろもどろになっ  
て冷や汗をかいたことがあります。

## 『火事息子』

二つ目の頃、志ん朝師匠のお供で大須演芸場に行ったとき  
のこと、志ん朝師匠がマクラを喋っていたとき、上手から  
白い煙が、舞台袖の消火器が倒れたものですが、一時は場  
内騒然。その後演じられたのが『火事息子』でした。ネタ  
出しのない会でしたので、志ん朝師匠の咄の判断でこの  
噺を選んだように伝わっていますが、実は志ん朝師匠はこ  
の噺をやることを開演前に楽屋で話していました。つまり  
不幸中の幸いだったのです。志ん朝師匠の思い出とともに、  
忘れられない一席です。

## 『居残り佐平次』

参  
一番好きな噺です。佐平次は粹で親孝行な憎めない悪党で、  
なんとも痛快です。二つ目になって間もない頃、勉強会で  
出しましたが、私には太刀打ちできない大物でした。いま  
だに納得のいく出来はなく、憧れの噺です。

# 行こみちが

女流二ツ目の修行日乗(30)



柳亭こみち



打上げの席でテーブルからはみ出そうなほどの料理。出演者はみんな、楽屋のお弁当をいただき満腹。誰もが話している。「こんなにたくさん誰が食べるんですか」「そりゃもちろんこみちが。食べるのも修業だよ」。死に物狂いで食べ続け、何度もトイレに吐きに行った地獄の打上げの記憶は薄れない。

無理が祟って前座二年目、胃、食道、十二指腸がイカれてしまった。

修業中は朝八時に師匠宅へ行く。前座会(太鼓の稽古会)の日は七時、師匠が午前中から仕事の日は六時だ。「女だから甘やかされた」と思われるのを嫌う師匠だが、胃袋事件への特別処置として当座の十時出勤が許された。毎朝病院へ点滴を受けに。お粥しか受けつけない体で駆けずり回っていたら、二週間で八キロ痩せた。師匠は「回復するまで打上げは出なくていい」とも。

漸く生命を断たれてなるものか。歯をくいしばって点滴生活を1ヶ月、薬を八ヶ月飲み続けてなんとか正常な胃を取り戻した。クビにならずに済んだのも、すべて師匠の恩情のお陰。

医者に言われた。「暴食だけが原因じゃないかもし

れませんね。あなたは自分の体と心に鞭打って修業してるんですよ。その悲鳴が胃に来たんです。本当に鍛錬された体と心であれば今の生活が当たり前であるはず。健康を害うこと自体、修業が足りない現れですよ」。

まったくその通りだと、骨身にしみた。

●りゅうてい・こみち

社会人生活を経て、平成15年柳亭燕路に入門。18年11月二ツ目昇進。趣味は長門。特技は日本舞踊、言葉流名取(言葉春美)。落語協会野球部

味な脇役・話芸のきまり文句

連載第31回

## 信心

松井高志



古典の落語や講談には、神仏にまつわる言葉もずいぶんたくさん出てくる。講談の名僧伝のたぐいを除いても、特定の宗派の宣伝を意図したのではないかと思われるようなネタもある。ただ、一般には、話芸で使われる信仰系のきまり文句は、どこか信仰のいちずさ、ひたむきさを斜めから眺めて揶揄したようなトーンのものが多いようだ。

仏頼んで地獄へ落ちる

は、「大船に乗ったつもりで任せておけ」などと、大きなことを言う人にかけて期待が

思い切り裏切られることのたとえ。講談「伊賀の水月」で、悪玉の桜井兄弟が、竹内玄丹という武芸者に依頼して、主人公・荒木又右衛門を潰そうと図るが、もうくも失敗。その際、あてがはずれ、ガッカリした兄弟が口にする。

正法に不思議なし

これは、本来、正しい宗教には不思議はない。不思議な御利益や、むやみにおいしいお恵みがあるというのは、邪教なのだ、ということわざなのであるが、これも本来の意味からずれて、たとえば落語「大工調べ」では、あまりに因業な大家のやり口は正しい人の道に反する、というような比喩に使われている。「長屋の花見」では、貧乏花見ツアーの企画者である大家が座を盛り上げようと、ひとつ都々逸でもうなつてはどうだ、と長屋の面々に勧め、

朝な夕なの神信心もお前に御怪我のないやうにみたいのがいいじゃないか、と言う。これに長屋の住人は、

汽車の窓から覗いて見たら電信柱が飛んで行くという迷作を返している。都々逸や粋な遊び事にあまり関心のない筆者は、はつきり言って後者の方が好みだ。こういうのを、

縁なき衆生は度し難し  
などというのだろう。

●まい・たかし

一九六〇年愛知県生まれ。月刊誌編集者を経てフリーライター。著書に『人生に効く! 話芸のきまり文句』(平凡社新書)、『ナンドク(難読漢字学習帳)(パズリコ)』(戸に学ぶビジネスの極意)『アスペクト』など。「話芸」きまり文句。サイトは <http://wageidom.cocolog-nifty.com/>

microSD版

## ラジオデイズギャラリー

「語り」を持ち歩こう!

いま旬の噺家の息づかいもリアルな必聴落語の数々、現代がよくわかるエッジの立った国際時事解説がこんな小さなカードにみっちり満載です。

●落語永久保存30選

合計収録時間:約20時間09分

¥9,900.-

●爆笑演芸会33選

合計収録時間:約18時間24分

¥9,900.-

●特選現代落語35選

合計収録時間:約14時間11分

¥8,800.-

●田中宇の「世界はこう読め!」

合計収録時間:約11時間27分

¥3,900.-

発売中

たとえば...



ラジオデイズギャラリー入り  
microSDカード

microSDカードが使える携帯音楽  
プレーヤーでお手軽に楽しめます。  
パソコンで聴くには、カードリーダーを  
ご使用ください。※携帯電話では再生できません。



Voice-Trek  
DS-750

お問い合わせ: (株)ラジオカフェ

<http://www.radiodays.jp/>

メール: [info@radiodays.jp](mailto:info@radiodays.jp) Tel.03-3341-1230



## オリンパスモビープレゼンツ

### 「鉄博寄席」(第1回)

【会場】鉄博ホール(鉄道博物館内/大宮)

【本席】無料(鉄道博物館入館料のみ) 要予約

【時間】午後2時開演(午後1時30分開場)

●2010年1月9日(土)

柳家小ゑん・古今亭駒次  
三遊亭遊雀

## オリンパスモビープレゼンツ

### 「フジテレビ目玉名人会」(第7回)

【会場】フジテレビ・マルチシアター(会場)

【本席】2800円(前売2500円)

【時間】午後4時開演(午後3時30分開場)

●2010年2月27日(土)

古今亭菊之丞・ゲスト二遊亭小円歌  
\*トークあり。司会・塚越孝十女子アナ

※「予約申込受付中」ラジオデイズURL <http://radiodays.jp> もしくは、予約受付専用電話:〇三三四—二二四—二二四より、先着順です。

## ラジオの街で逢いましょう

ラジオデイズでは、声と語りの魅力を求めて、深夜のラジオ番組も制作・放送しています。

お相手は、ラジオデイズプロデューサーの平川克美、菊地史彦、伊藤博、大森美知子が務めます。これまでの放送分は、ラジオデイズサイトにストリーミング放送中。さらに、ポッドキャストでも配信しています。どうぞ真夜中の語らいに耳を傾けてみてください。

<http://www.radiodays.jp>

インターネットF M毎週日曜日の深夜23時から23時半まで。

### 今後の放送予定(深夜のお客様)

12月6日 南仲坊(イラストライター)

13日 国本武春(浪曲師)

20日 小黒一三(月刊「ノット」編集長)

27日 小池昌代(詩人・作家)

## 霜月の落語会

〓柳家喜多八独演会

霜月のオリンパスモビー寄席(十一月十七日)、前身のシンクろ寄席時代から数えて寿第三〇回記念、出演はラジオデイズ最多作品数を誇る柳家喜多八師匠しかおりませぬ。

開口一番は、扇辰師匠の一番弟子の入船亭辰じんさんで、ネタは「垂乳女」。よく通る大きな声と師匠譲りのきっちりした芸には期待できます。

さて初っぱなから喜多八師匠が気急ぐ登場、一変して師匠の軽妙洒落さが笑いを誘うネタは「鰻の暫間」。調子のいいたいこもちが客にたかろうと思いきや、凄腕の客に一杯食わされるお馴染み滑稽噺で、デイーブな古典落語ファンを笑わせます。笑わぬと思うそばから笑い出し。さっそく喜多八術中に嵌ってしまいました。

お次は本日のゲスト、若手ナンバーワンの呼び声高い春風亭一之輔さん。季節柄ネタは「敷入」で熱演です。奉公に出した息子の初めての里帰りを待ちわびる父親の心情が涙を誘います。

### 三遊亭円丈



本田久作

### 高橋源一郎



小池昌代

### 養老孟司



内田樹

### 「声」と「語り」をダウンロード!

今が旬の音声コンテンツ満載  
<http://www.radiodays.jp>

今最もブッキング困難な役者を揃えた特別対談。絶妙な話芸と目から鱗の文化対談をお届けします。

#### ●戦後落語論

新作落語の旗手、そして教祖的存在である三遊亭円丈に、新進の落語作家本田久作がからむ。落語ファン待望の新作落語黎明期の真相話が炸裂。

#### ●戦後詩人論

戦後作家の中心的存在であり鋭利な批評家でもある高橋源一郎が、生粋の詩人にして川端康成賞の小説家でもある小池昌代と現代詩について話し合う。

#### ●戦後マンガ家論

脳生理学者であり京都漫画ミュージアム館長でもある養老孟司と小林秀雄賞受賞の現代思想家内田樹。マンガに一言あるこのふたりが存分に語り合う。

そのほか、面白くて物凄、朗読や落語がいっぱいです。ラジオデイズサイトによるこそ!

※ご購入や無料ダウンロードには会員登録(無料)が必要です。

## ラジオデイズの窓から

新宿御苑沿いの遊歩道を前のめりになって歩く人々の足元で落ち葉がガサゴソ音を立てています。師走の声をきくとにわかに気がついてきますが、こんなときこそ心にゆとりをもちたいものです。年末年始にむけてラジオデイズでは、録りたての落語や講談、滋味にみちた対談や講演のほか、在りし日の遠藤周作、開高健、宇野千代の語りなど、心に触れる声のコンテンツをご用意しています。

## 「オリンパスモビー寄席」携帯用特別コンテンツ

モビー寄席特別コンテンツでは、モビー寄席やラジオデイズ落語会にご出演いただいた演者さんの情報や音源、最新のラジオデイズイベント情報が携帯電話からお楽しみいただけます。



p@mobee.jp

### バーコードで簡単アクセス!

左のQRコードを携帯のカメラで読み取り、メールを立ち上げて撮影写真を添付し送信。

※ドメイン指定受信の設定をされている方は、mobee.jpを追加してください。

月刊ラジオデイズ各号の1ページ目『この人の声が聴きたい』の丸抜き写真・見開きページの落語家さんのプロフィール写真を撮影、メールに添付して送信すると、アクセス先URLが記載されたメールが返信されてきます。



### Mobee (モビー) とは?

オリンパス(株)とホスティング・アンド・セキュリティ・インクの共同開発による、携帯サイト作成ツールと先進の画像認識技術によるサイトアクセス方法を月あたり263円〜という低価格でご利用いただける携帯サイト作成サービスです。

個人の方から法人のお客さままで自分専用の携帯サイトを簡単に開設することができます。用途に応じて、クーポン作成やメルマガ配信などのプランもご用意しました。お申し込みは、PCから<http://pdh.mobee.jp>にアクセス!